

慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたい慣用句・ことわざを取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『血も涙も無い』

意味: 人としての思いやりや優しさが少しもないこと。

ひとこと: 血と涙はどちらも、人の温かみや人情、思いやりを指す。

使い方: 血も涙も無いルールはよくない。

『爪に火をともし』

意味: 苦勞して節約すること。

ひとこと: 昔、ろうそくや油の代わりに、自分の爪に火をともして明かりするということから。

使い方: 祖母は爪に火をともしようにして、これだけの貯金を作った。

ことわざ

『過ぎたるは及ばざるがごとし』

意味: 何事もやりすぎは、やり足りないのと同じように良くないということ。

ひとこと: 類義語として「薬も過ぎれば毒になる」がある。

使い方: 過ぎたるはおよばざるがごとしで、運動もやりすぎると体に良くない。

『住めば都』

意味: どんな所でも住み慣れると、そこが一番暮らしやすい場所になるということ。

ひとこと: 類義語として「地獄も住み家」がある。

使い方: 不便なところでも住めば都で、気に入ってきた。